

地球惑星科学委員会  
SCOR分科会（第24期・第7回）  
議事要旨

日時： 令和元年12月23日（月）10:00-12:00

会場： 日本学術会議5回5 - A（1）会議室

出席者： 山形俊男（委員長）、青山道夫、沖野郷子、蒲生俊敬、川口慎介、窪川かおる、張 勁、新野 宏、花輪公雄、原田尚美、日比谷紀之、古谷研（スカイプ）、益田晴恵（スカイプ）、渡邊良朗（五十音順）

欠席者： 植松光夫、齋藤文紀、白山義久、野村大樹、升本順夫（五十音順）

## 議題

### 報告事項

#### 1．SCOR年会報告（資料1-1、資料1-2、資料1-3）

富山県で9月23日から25日まで開催された2019年度SCOR総会および理事会について山形委員長より、以下の報告があった。ア）SCOR副議長の張委員が準備・運営全般を担われた3日間の会議は盛会であったこと、イ）Ed Urban氏が事務局長を降板する年にあたり、会期中にその労に感謝する機会が設けられ、分科会もこれまでの労をねぎらい記念品を贈呈したこと、ウ）2020年1月1日よりPatricia Miloslavich氏が事務局長に就任し、来年は役員選挙があること、エ）活動中のWG報告の紹介と2019年度申請のWG審議があり、二件を選んだこと、オ）次回はエクアドルで開催されることなどである。張委員からはSCOR年会の前に富山県との共催で開催した海ごみシンポジウムについて報告があった。シンポジウムの後に企画された高校生との討論会は各国代表に極めて好評であった。なお、11月にEd Urban氏から国内対応担当のSCOR分科会宛に丁寧な礼状をいただいている。

#### 2．日本海洋学会との共催シンポジウムの報告（資料2-1）

SCOR総会の最終日、9月25日（水）午後SCOR - 日本海洋学会合同で学術会議公開国際シンポジウム「日本の海洋科学：現在と将来」を開催し、両組織が交流した。このシンポジウムの内容に基づいた月刊海洋の特集号が出版される予定である。

#### 3．海洋生物学分科会との共催シンポジウムの報告（資料3-1）

海洋生物学分科会委員長の窪川委員と山形委員長より11月7日に開催した日本学術会議主催「国連海洋科学の10年—One Oceanの行動に向けて」の説明があり、わが国としての取り組みについて意見交換した。

#### 4．「学術の動向」（11月号）特集号発行の報告（資料4-1）

蒲生委員より「学術の動向」11月号に「研究船による海洋観測 - 地球環境問題解明と社会への成果還元へ向けて-」が掲載されたとの報告があった（資料4-1）。この特集は2018年12月25日に開催した学術会議主催公開シンポジウム「海洋観測における研究船の役割：成果と展望」に基づいている。

#### 5．研究船関係動向

沖野委員より白鳳丸の改造、延命に向けた補正予算が通過したとの報告があった。学会等からの要望書および当分科会主催のシンポジウムへの感謝が述べられた。白鳳丸改造中の運航休止に伴う問題に関しては方策を考えるとの報告があった。

## 審議事項

#### 1．持続可能な開発のための国連海洋科学の10年への取り組みについて

2021年より開始される国連海洋科学の10年に対する取り組みを議論した。関係省庁

およびIOCの動向に沿いながらSCOR分科会が国連海洋科学の10年の実施に協力していくことが承認された。日比谷委員が中心となってWGを立ち上げることとなった。

## 2. 25期に向けた準備

9月30日で24期は終了する。山形委員長より第25期の会員と連携会員の改選にあたり、分科会の活動の継続、発展に向けて、次期委員候補者となる方々の推薦を積極的に行うよう要請があり、承認された。

なお次回（第8回）は恒例のSCOR WG審査に合わせて7月初旬ごろに行うことを確認して閉会した。

## 配布資料

資料1-1 2019 Proceedings of SCOR

資料1-2 SCOR-NL-41

資料1-3 Thank-you letter to Japanese SCOR Committee

資料2-1 SCOR-日本海洋学会合同シンポジウム

資料3-1 UN Ocean Decade Joint Symposium of SCJ and OPRI-SPF

資料4-1 学術の動向11月号 特集2「海洋観測における研究船の役割：成果と展望」

以上